

YMC-Triart C18の幅広いpHレンジの活用

S090910A

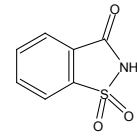
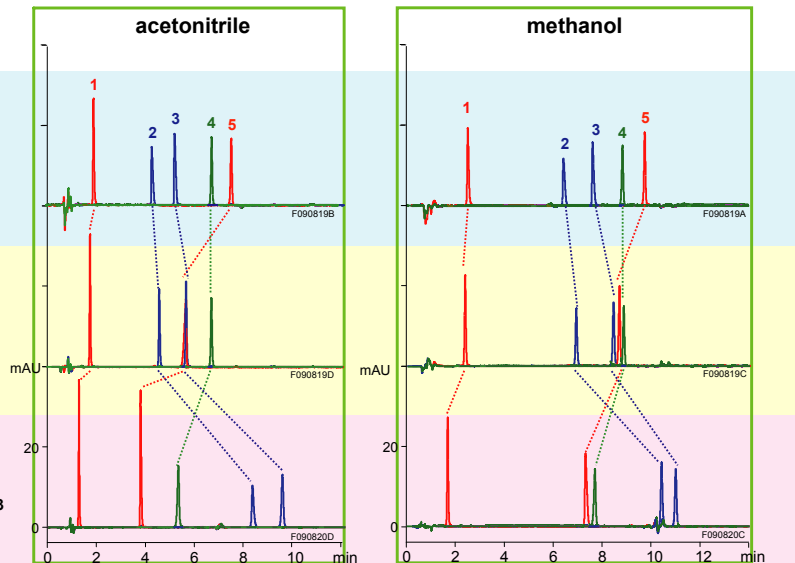
YMC-Triart C18は使用pH レンジが幅広く、また、あらゆる移動相条件で良好なピーク形状が得られるため、メソッド開発時に化合物と移動相条件による選択性変化を最大限活用できます。

選択性変化に着目した最適なpH・有機溶媒の選択が可能

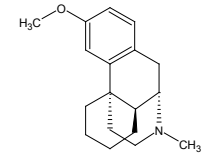
各化合物の保持時間や溶出順序は、移動相のpHや有機溶媒の種類によって変化します。Triart C18は使用pHレンジが幅広いいため、分離条件の最適化にあたって移動相条件による分離の変化を最大限活用できます。

YMC-Triart C18
5 μ m, 50 X 2.0 mmI.D.

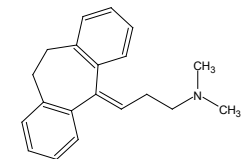
pH 2.9
10 mM HCOOH



1. Saccharin
pka=2.2



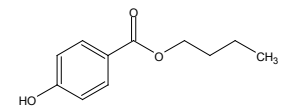
2. Dextromethorphan
pka=8.3



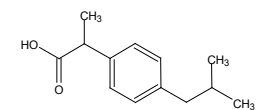
3. Amitriptyline
pka=9.4

あらゆる移動相条件ですべての化合物が良好なピーク形状

Triart C18ではあらゆる移動相条件ですべての化合物が良好なピーク形状を示すため、メソッド開発時にピーク形状改善の検討を必要とせず、分離達成の検討に集中できます。



4. n-Butylparaben
pka=8.3



5. Ibuprofen
pka=4.4

Eluent : A) 10 mM formate buffer
B) methanol or acetonitrile
: 5-90%B (0-10 min), 90%B (10-15 min)
Flow rate : 0.2 mL/min
Temperature : 25°C
Detection : UV at 230 nm

